

格別の損はない筈である。如何に忙がしい時でも同情と云ふことを忘れてはならぬ殊に兒童の口に出す所は一部分に過ぎずして、多くの苦痛や心配を胸に藏して居る。又た子供相當の希望を持ち、之がため奮闘もし尚上もしやうと努力して居るから、此等は察して同情してやらねばならぬ傷める草を折ることなく煙れる麻を熄すことなし」との心もて兒童に對せねばならぬ。

◎使徒パウロは子供を怒らすべからずと云つたが恐らく彼の經驗より出でし教訓と思はる。此の意味を敷衍すれば左の意味となる。奴鳴つて怒らすな、冷罵するな、子供の面前で悪い奴だと云ふべからず又たお前は悪いが誰某は善い子だ之を模範とせよと云ふが如きはいけない、子供の獨立心を損するな無暗に試験をしたり苦しめたりしてはいけない。

◎最後に兒童の價値を尊重すべし。彼等が天の使は天にありて天に在す吾父の面を常に覲ればなり。兒童の價値は無限なり、故に之を尊重すべしとの結論に歸着する。此の教訓は先づ幼稚園とな

りて現はれた。彼のベストタロツチが子供に取り巻かれて居る像は我等に偉大なる感じを與ふるのであるが、兒童に對する要義は結局愛と尊敬にあり。如何に方法手段の完全するも、兒童の人格、性質、價値に對する尊敬と及び之に對する愛がなければ兒童の教育は成功しないのである。而して兒童を尊敬し之を愛するは同時に神を尊敬し神を愛する所以である。耶穌曰く「わが名の爲に此の如き一人の嬰兒を授る者は我を授るなり」と。

### 婦人と園藝

梅の花は既に散り櫻を首め種々様々の花が追々に咲き出さうと云ふ、一年中の最も楽しい春は是からです。申す迄もなく若草が毎日に伸びるので野原は纏て一面に青い絨毯を敷き延べた様に成り、木の葉も亦何時となく滴らん許りの縁を飾りませう。斯く愉快な陽春の季節は蔬菜の播種や草花の培養や樹木の植付けに至極適當なのだから、此好機を逸しないで、近頃世間に喧傳されて居る園藝

を試みては如何です。

園藝に手を着けると愉快な春が一層楽しく送られるので、一度其面白味を覺えたが最後、到底之を忘れることは出来ない位、然るに我國の婦人には兎角引込思案のものが多く、斯る結構な事柄に對して殆んど注意をすら拂はない勝であるのは残念と云ふよりも寧ろ不思議と申したい。園藝の普及には婦人の力を要することが澤山にあるので、先以て家庭に此趣味を充實させねばならぬ様に思ひます。

それはさて措き、婦人の着用する衣服の色彩と其模様は千差萬別と申さねばならぬが、此等の色彩と模様を見ると植物殊に園藝植物を巧に應用したものが如何にも多い。而もそれが雷に立派な葉を着け綺麗な花を開く、普通の植物ばかりでなく、隠花植物として蕪苔類や羊齒類や水藻類の如き、花の咲かないものをも用ふる次第は今さら申す迄もありません。殊に近年は高山植物と唱へて雲を貫く高山或は夏も寒い土地に生育せる植物を採つて参り、之を栽培して愛翫する人々が追増加し

たので、自然衣服などの模様にも可憐らしく又珍らしい此高山植物を應用するのが流行しかけて参りました。

天から與へられた自然物を應用するのは誠に結構なことなので、天然の風物を愛し且之を樂むと云ふ様な、極めて優美な思想は益盛に致したいが、我國の人々は男女ともに押なべて西洋人よりも斯る念に富んで居ると思ひます。我國の婦人が生花や造花の如きに多大の趣味を持つて居るのも此邊に胚胎したのでせうが、昔から園藝の途が開け、竹の園生にお育ち遊ばされた方すら之に對して趣味を抱かれ、田夫野郎とても矢張り相當に此觀念を持つ始末となり、園藝に關する西洋の學問と技術が輸入されてから、愈其進歩を見るに至つたのは、實に喜ばしい次第ではありませぬか。人間が快樂を獲る方法には種々あるけれど、園藝の様な自然の美妙を友とし、且之が發育を助けるもの程、立派で優越で善良な事柄はあるまいと存じます。加之園藝と云ふものは他の人々を首め如何なる方面に對しても更に迷惑を及ぼす心配や損

害を掛ける氣兼ねないので。斯くまでに結構な園藝だから共進歩發達を謀るには、凡ての人々が残らず努力して然るべきことと思ひます。素より男子たると婦人たるとを區別する必要はありませぬが、併し體質や性情の上から見ると寧ろ婦人に向つて特に大なる希望を繋かねばならぬ様です。婦人は其體質なり性情なりが泥に塗れて勞働せねばならぬ農耕の仕事には、聊か不向であるかも知れない、併し家庭の娛樂と適宜の運動位を主とする些やかな園藝の如きは男子よりも寧ろ婦人の方が進んで試むべきであるまいか。殊に我國の婦人の様に兎角屋内に蟹居し勝ちのものに取ては之を營むと自然に屋外に出て新鮮の空氣を吸へば太陽の光線をも受け得らるゝから知らず識らずの間に何時となく身體を強め精神を養ふ譯になること、思ひます。

然るに其實際を見ると園藝にたづさはるものは大抵男子許り婦人は殆ど之に關係しないと申しても支ないでせう。婦人の中にも稀には園藝の仕事を執ものがあるのです。紀伊や駿河の密柑畑へ行くと

濃綠色の葉が繁つた間に滴らん許の黄色に赤味を帯た子實が房々と熟して居るのを赤い手櫛を掛けた婦人が暖かい日光を浴ながら探て居ます。又北海道札幌の町外づれに出ると、友禰染の帯を締めた婦人が、萌る様な楡の葉を透して吹く南の風を受けながら、可憐な草苺の栽培に餘念のない實況を認むるのです。此等の外にも苧蒲や薔薇や牽牛花や菊の様な花卉、或は高苜や玉葱や甘藍の様な蔬菜の培養をする婦人は到る處の市街の附近に頗る多いではありませんか斯る業務に従事する婦人は繪畫や詩歌を現實にする次第なので。其胸の裡には恐らく浮世の邪念と云者がなく只管天真の妙趣を樂んで居るに相違なからうと存じます。此等は皆普通の婦人乃至勞働者の妻女に就て申したのですけれど、園藝を營む婦人は固より此種の者のみに限られた譯で御座りませぬ記者が嘗て新宿御苑を拜觀致した時に、此御苑の一部を劃して種々様々の園藝植物が見事に栽培されてあるのを見ました。掛りの役人の話に據ると之は英照皇太后御在世の折に、思召によつて特に花卉や蔬菜な

どの園藝を營み始めたので皇太后には屢此園に行啓し給ひ。いつも御運動と御歡樂を執らせられたさうですが、皇后陛下にも度々行啓おらせらるゝとのこととであります

所が一般の婦人は概して園藝に無頓着らしく見えます之は自然の美妙を愛する我國の婦人にも似合はぬ次第、布帛地に染出した花卉を愛して眞の園藝植物に及ばないのは、全體如何云ふ譯でしやうか。生花や造花に熱心しても實際の花卉に對する趣味が乏しい爲に。飛た間違のあるものを作るのは未だしも勢ひ面白味の半分より取る事が出來ない點に氣付かれないのですか、自身着用の衣服に染出してある植物の名稱すらも辨へない婦人の多いのは自然科學殊に植物學に疎い結果でありますまいか。此缺點を除くには園藝の趣味を飲込まるゝが最も早道、最も良好と思ひます併し婦人の園藝が單にこれ丈けの利益を獲るのみに止まると申す譯では御座いませぬ

園藝と申せば一寸むづかしくも聞えるので、深く立入れば奥底もない位です。併し座敷の前の庭に

幾株かの花を作るのも園藝、臺所の外の明地に少許の蔬菜を播くのも園藝、住宅の横町に果樹を栽ゑるのも園藝なれば、菜園に蔦葛を偃はせるのも矢張り園藝なので、差當り婦人に望む所は斯る手に近な事柄にたゞさはり、之に依つて先づ園藝の門に入り、其趣味を解せらるゝことなので。固より眞の園藝家に成つて専門的に之を營む様にと申す譯では御座いませぬ。唯家業の餘力を用て多少共此等の業に心掛け、娛樂と運動位を目的として園藝を試みらるゝ、所謂非專業家となられんことを希ふ次第。

田園生活と云ふ問題が近年到る處で唱へらるゝ勢ひとなり、延て都會に居住せる人々が田園の風物を慕ひ、事情の許す限り熱鬧地域の外に出やうとするもの、多い傾向を示す様に成りました。此傾向は頗る喜ばしい現象ですが、到底田園に引込むことの出來ない方々の中には、責めてもの感みて猫の額ほどの土地に花を栽ゑる木を培ふたり、窓の前に手の掌にも足らぬ鉢を並べたりして、樂んで居るものも中々多い。是等とて誠に結構な譯柄

と存じますが、都會に田園の風尚を加味するのは面白くないと云ふ一部の論者もあるかは知れないけれど、紅塵萬丈の裡に生活する人々が、之に依つて天然の美妙を味ひ得る許りでなく、優美且高尚な娛樂を取ることの出来るのは、至極喜ばしい次第ではありますまいか。又或論者は園藝を以て道德を高め風教を助くる點に大なる効能があると申します。いかにも植物は播種の始めから培養や施肥や灌水や整枝や驅蟲などの手數を経て其結果を收むるに至る迄の間、凡て皆自然の力を藉り、之に人間の力を添へる譯です。些しこの誤魔化しも利かないので、始終正直に、誠實に遣らねばならぬ點が、自から道德や風教の補足となるに相違ありません。併し乍ら園藝なるものが積極的此等の事柄に裨益するとは、聊か受取り難い様な氣も致します。唯手を之に染むるのを樂みとする爲に、勢ひ邪念を起し淫奔に近づくなどの虞を滅する丈は、慥に間違ひのない事と思ふのですが、何れにしても園藝の効能は主として形而下の部面に多い様であります。

英國の某貴婦人は倫敦に於ける交際社會の花と歌はるゝ程で、其社交的會合の場所に此貴婦人を見ないことはなかつたのですが、身體の弱ひ爲に醫師からの勧誘もあつたので、俄に手を園藝に染めて花卉や蔬菜を仕立つるのを毎日の課業とし、それから殆んど交際社會に顔を出さなかつた。斯くて一年後に醫師から著るしく健康が勝れて來たのを賞められると、貴婦人は健康の外に二十萬圓の利益を得ましたと答へられるから、其譯を尋ねると交際費や小遣錢が餘つたのだと云はれたさうです。我國にも普通の婦人に有勝ちの虚榮心に駆られ、無理な算段をしてすら交際場裡に出入して、得意然たる方が澤山ある様に存じます。此等の婦人が心を園藝に轉ずれば、必ず彼の英國の貴婦人の様な結果を收めて、意外の利益をも見る事が出来ませう。

全體都會に住んで居るものは當に生活の爲に激烈の奮闘をなし過度に精神を使ふ許りでなく其空氣は田園の空氣の様に新鮮でなく而も日光に浴する機会が尠いから自然に健康を害して早世するもの

が多い。之は歐羅巴の書籍や統計表などにも掲載されて居るので殆んど疑ふべき餘地がありません。斯る缺陷を排除するには先づ以て都會の人々に園藝の趣味を普及し公園は申すに及ばず道路などに出来る丈の樹木を植ゑ、各自の庭園にも亦能ふ限り澤山の植物を繁茂させるが肝要です此等は素より男子の爲すべき事柄に相違ありませんがさりとて婦人も亦決して之を度外視すべきではありません。婦人が其全部又は一部を擔任する様にありたいのです。

米國には多くの都會にシビック、インブルーメント、ンサイターと云ふ團體が組織され、公園や道路に樹木を植ゑ其美觀を添へることに骨を折つて居ます。而も此團體の仕事は半婦人に依つて營まれて居ると云ふて善い位、それから又同國の都會の居住者は何れも自己の庭園を立派に仕立てるに努むる計りでなく、家主の側に於ても多數の借家人の中で最も立派に庭園を仕立て、草花なり樹木なりを配植したものは數十圓乃至數百圓の賞

金を贈與すると云ふ始末なので。従つて婦人連中は娛樂を外にするも。慾氣に驅られて園藝に熱心する有様なのは兎にも角にも結構なことと思ひます。

所が我國にては專業に營んで居る少數のものを除ば園藝が殆ど全く男子の手のみに依て營まれて居る。或は女尊男卑の國柄と大に趣を異にせる我國ゆる、彼と我と同様に論ずる譯に行かないと申さるゝかも知れないが、併し我國にては婦人が内助の任に當るものと成つて居る以上、家庭に於ける園藝などは内助の任を負へる婦人の須く手を下さすべき事柄ではありますまいか。殊に婦人は歐羅巴の詩人などから男子の強剛な性をオーク樹、即ち日本なれば黒松にたとへると同時にアイキー日本で申せば薦葛にたとへられて其嫵娜な風姿を用て能く強剛なものに拵み付きつゝ、之が伸張を助け且之が危難を防止すると歌はるゝ位で婦人は家庭に在つて斯る役目を努めねばならぬものであるから愈以て園藝を擔任し家庭に於ける趣味と實益

金を贈與すると云ふ始末なので。従つて婦人連中は娛樂を外にするも。慾氣に驅られて園藝に熱心する有様なのは兎にも角にも結構なことと思ひます。

所が我國にては專業に營んで居る少數のものを除ば園藝が殆ど全く男子の手のみに依て營まれて居る。或は女尊男卑の國柄と大に趣を異にせる我國ゆる、彼と我と同様に論ずる譯に行かないと申さるゝかも知れないが、併し我國にては婦人が内助の任に當るものと成つて居る以上、家庭に於ける園藝などは内助の任を負へる婦人の須く手を下さすべき事柄ではありますまいか。殊に婦人は歐羅巴の詩人などから男子の強剛な性をオーク樹、即ち日本なれば黒松にたとへると同時にアイキー日本で申せば薦葛にたとへられて其嫵娜な風姿を用て能く強剛なものに拵み付きつゝ、之が伸張を助け且之が危難を防止すると歌はるゝ位で婦人は家庭に在つて斯る役目を努めねばならぬものであるから愈以て園藝を擔任し家庭に於ける趣味と實益

の増進を謀らねばなりませんまい。

今まで一度も鋤や鋤を握つたことのない婦人とて

餘暇ある折に數十分間づゝ之を手にする位は何も

苦しみとならない計りでなく、却つて愉快を覺える

に相違ありません。而も其結果として可憐な花が

咲いたり、美麗な葉が出たり見事な實が熟したり

するのですから此味は解すれば解する丈け愈面

白く成つて何故早く園藝を始めなかつたのであら

うと啣つ様に成らるゝことと思ひます。而も其成

績品を親戚や知友への贈物とし或は植物生育の

状態を知りて智識を研くの料とするなど意外の趣

味と實益があるものです。我國の婦人には兎角引

込思案のものが多くと思ひますが、併し又事に臨

んで敢爲遂行の氣象に富で居ることは今更申す迄

もないのだから、實地に園藝の試験をする積で差

當り何なり一二のものを作つて見ても如何です。

汁の實が出来ても内方の畑のものであれば新鮮、  
清潔の上に優等の様な心地するから、何となう美  
味に感ぜられます。何は兎もあれ斯ういふ風のも  
のから實行を始め追々に経験を積み熟練を重ねる

に従つて、六ヶ敷ものを作り珍しいものを植ることとすべきです今は丁度園藝着手の好季節だから、此機会を失してはなりません。

(おほり)

# 保育叢話 (承前)

光藤夫人

鳥獸を飼養し植物を栽るる事の子供に與ふる利益  
子供は元來動物植物を好み之をいぢる事を樂みとす  
る傾向がある様に思はれます。殊に男兒は空に  
飛ぶ鳥を追ひ、道を走る犬猫を見ましては、一寸  
立止まつて眺める位に興味を持つて居る兒がある様で  
御座います、春夏などの蟲や鳥の多い頃には庭に  
飛ぶ蝶々を帽子で採る爲めに、かけめぐり、トン  
ボを釣る爲に罎を探る爲めにモチを竿の先頭につ  
けて庭園から野外にかけずり廻るのであります。  
兒等の熱心なる事はよし炎熱やぐが如く、汗ダラ  
ダラになりて、眼の落窪むまで疲勞しても、少し